

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話 (〇七五) 二二二二・二一八

《あれから10年・未来の京都に?》

2013年NPO法人京都高瀬川繁栄会として京都市長室訪問しました。その折、京都にあったら良いなと言う話になり「京都バイパス道」「ラゲジュアリーホテル」「地震や災害に対応できる橋」「三条と四条鴨川の真ん中に橋」「京都の空の道」「清水寺近隣に巨大駐車場」「地下鉄の延長」「ゼストにスーパー」等大小が上がりました。私は、生涯の京都への恩返しとして「京都の空の道」に尽力したいとしました。

あれから十年、衣笠に「アマン・リゾート」等6カ所?誘致成功。京都の主要橋の改修工事は着々と進行。清水寺の大駐車場は五条通の地下に計画を議会可決、商店街組合の反対で頓挫。「地下鉄の延伸は中止」「市民サービス縮小」「京都市庁舎新築四百億円?」「市立芸大移転新築」「京都市財政破綻目前(R6)の報道」コロナ禍とロシア禍を如何に乗り越えられるのか?京都市の未来は?

京都国立博物館

《最澄と天台宗の全て》

4月12日~5月22日

王城の地、京都の鬼門を守る比叡山延暦寺は最澄によつて開かれた天台宗の総本山です。天台宗は皇室の崇敬を集め、京都には皇族が入寺し延暦寺の里坊として営まれた天台宗五箇室門跡(曼殊院、青蓮院、三千院、妙法院、毘沙門堂)が並びます。この町は天台宗の二大中心地でもあるのです。伝教大師最澄の遠忌を記念して、ここから全国に広まった各地の天台寺院の名宝が時を隔てて集結する展覧会が実現しました。

中学担任の天納傳中先生は天台宗の勸学大僧正、声明の研究家、口伝を楽譜に学修。昭和62(1987)年より先生と「天台声明を聴く会」を大原勝林院にて一般に公開、現在も継続中。私には最も憧憬が深い宗派です。

《自由とは》

常葉臺住職 今小路覚真

自由という言葉は魅力があります。多くの人が求める行動の基本でもあります。でもその言葉が魅力であるがゆえに、弊害を生んでいることもあります。自分のやりたいことだけを囲りに強要すること、「自由だ」と強弁したりすることもその一つです。自分のやりたいことを自分の意志でやりとおすことは、確かに自由という言葉の一つの表れです。社会生活を営むことは一人だけでは不可能です。必ず複数の人との共同の営みがついてまわります。こうした共同での社会生活を営むうえでも自由は決して自分一人だけのことではないのです。わたしは自由であるということ、囲りの人も自由でなければならぬのです。囲りの人の自由を許すことは、わたしの不自由を100%受け入れることです。わたしが自由であることは、囲りの人が不自由を強いられることなのです。自由を知るとは、寛容を知ることです。

宗教法人花鳥寺 土口哲光住職の説法

《「無財の七施」で心のやすらぎを》

コロナ禍で、「密」を避けて閉塞の3年間を迎える。家族との人間関係がうまくいかぬと幸福になれない。とりわけ高齢者には、しあわせは心の安らぎにある。家族を含め周囲の人間とかけ合うには、いみじくも「無財の七施」を説いている。一、やさしい眼ざしで接する眼施、二、こやかな笑顔で接する和顔悦色施、三、やさしいことばで話しかける柔軟施語、四、からだで丁寧に敬礼する身施、五、なごやかな善心で接する心施、六、座席をゆずる床坐施、七、休養をすすめる家を開放する房舎施の七つである。これは人間としての徳目で、高齢者に限ったことでない。若い世代も壮年も実行したい。神仏の恩恵としていただくところに、心のやすらぎがある。

季節の家庭料理

田村真紀

《四月 ホタルイカと菜の花ガリックソテー》
菜の花の辛み成分には高い抗酸化作用がありま。またビタミンCや造血作用のある葉酸等も豊富に含み、色々なメニューで摂りたい野菜です。
《作り方・四人分》ホタルイカ百五十グラム・菜の花二百グラム・んにく(薄切りにする)二片・赤唐辛子(種を取り除く)一本・オリーブオイル大匙三・白ワイン大匙二・塩胡椒少々
菜の花は根元から三十秒ほど塩茹でしてから全体をさっと茹で、冷水に取り水気を絞り一口大に切る。ホタルイカは目・口ばし・軟骨を取り除く。フライパンにオイル、んにく、赤唐辛子を入れ弱火にかけ香りが立ってきたら菜の花、ホタルイカを加え強火でざっと炒める。白ワインを加え弱火にし蓋をして1〜二分蒸煮し塩胡椒で調味する。

つれづれの記

山崎辰巳

《ネーミング》
暮らしの周りには色々なモノやサービスにはブランドあるいはネーミングといえは良いのか、それに名前がついている。
ブランド全盛期に人気を集めたアパレルで今も生き残っているのはひと握りしかなく、当時アンチブランドを謳い文句にした「無印良品」は、親しみやすく判りやすいネーミングの妙か、今も生彩を放ち、支持を得ている。
近く参議院選を控える政党名もネーミングと考えると、「民主」のつく党名が与野党まじえて4つもある。国民主役の思いを反映させた命名だろうか、比較・対照は難しい。
まして日本維新の会、れいわ新選組に至っては遥か遠い明治期の改革を想起し、若い有権者には馴染めない印象を与えかねない。
情報提供の提供者は、常に理解しやすく伝達力のあるメッセージを心がけて欲しいと思う。